令和４年度ＭＩＥ職員力アワードにおける部門賞受賞取組概要

募集部門	部局名	活動テーマ	グループ名	取組概要
グランプリ・職員セレクト賞 協創推進部門	県土整備部	キッチンカーが津駅東口通りに初集合！！にぎわいの社会実験♪♪	津駅周辺道路空間再編！賑わい係長♪	現在の津駅周辺の空間が形成されてからおよそ半世紀が経ち、普段は閑散としている津駅前で、賑わいの社会実験を10月下旬に約2週間実施しました。内容は、東口通りの車道を6車線から4車線に減らし、その空いたスペースにキッチンカー等の出店やテーブル・イス等の憩いの空間の創出、土日のイベント開催です。 期間中は延べ6,500人に利用して頂き、大いに賑わうとともに、交通安全上の大きな問題もありませんでした。 来場者や沿線住民の方から評判も良く、アンケート結果からもほとんどが満足回答でした。多くの方に改めて津駅のポテンシャルの高さを示せたことと、様々な団体と連携していく中で、複数の部署から協力の連絡もあり、連携が徐々に広がっていったことが賑わい創出に繋がりました。 今後も、賑わい創出の取組を継続して実施し、津駅前が恒常的に賑わうようにしていきます。
デジタル活用部門	環境生活部	フードシェアリングサービス「タベスケ」を活用した食品ロス削減	ＴＲＦ（タベスケとレールポップでフードロス削減）	三重県では年間約９万ｔの食品ロスが発生しており、約半数は小売業や飲食業などの食品関連事業者から排出される事業系食品ロスです。 そこで、三重県では令和４年４月から県内市町を対象に、フードシェアリングサービス「タベスケ」の活用をモデル事業として実施しました。「タベスケ」とは、店舗側が余った食材や売れ残りそうな食品を登録出品し、一般の方が購入予約をする市町村向けのサービスです。県が広域で事業実施することにより、単独市町での事業実施と比べて食品ロス削減効果が増大されます。 令和5年2月時点で桑名市、亀山市、志摩市及び伊勢市が参加しています。これまでに約2700kgの食品ロスが削減されました。
ライフ・ワーク・マネジメント部門	戦略企画部	LWM・DXの推進、県民サービスの向上、リスク管理　全部お任せ下さい！	消費・生活統計班	「主務者が不在で対応できない…」、「このやり方でいいのか…、相談できる人がいない」、「締切が近い…。私が担当だから、一人でも、残業で何とかしないと」、こんなお悩みはありませんか？焦った仕事にミスが出て、またその処理に追われて…、落ち込む事などないでしょうか？それ、アナタのせいではありません！ 所属の業務量や、人員数が変わらなくても、事務分掌（＋業務割当制）を見直すだけで、このようなトラブルの多くを改善する事ができます！ 私たちは、実効的な業務の複数担当制、雑務の相互補完制など一定の基準に基づいた事務分掌の導入で、負担感の軽減や休暇取得の促進といったLWMの目標達成はもちろん、DXの推進やコンプライアンス違反の予防、県民サービス向上、BCP（非常時における業務継続計画）の改善といった多方面の課題をまとめて改善しました！ 是非、他所属でも導入をご検討ください！
サービス向上部門	県土整備部	ナッジを活用した滞納整理	公営住宅滞納整理推進チーム	１　背景 県営住宅使用料は年６億円程度の収入がありますが、滞納家賃にかかる入居者及び連帯保証人への督促・催告には多大な労力がかかっています。これにより、全国第２～３位の高い徴収率を確保し、県営住宅の適正な維持管理に努めています。今年は、高い水準を維持しつつ、労力をかけずに滞納整理ができないか検討することとしました。 ２　取組 行動経済学の概念である「ナッジ」を活用した滞納整理に取り組むことにより、入居者及び連帯保証人が自発的に納付するよう促すこととしました。 ※「ナッジ」とは、人々が望ましい行動をとれるよう、自発的な行動変容を促す手法 ３　検討過程 ７月の県土整備部政策会議、１１月の「ナッジ勉強会」の方々からいただいた意見を踏まえ、班内で検討を重ね、徴収率に影響を与える各場面で送付する文書の改善に取り組み、市町とも情報を共有しました。
審査員特別賞 職員力向上部門	雇用経済部	「よく分からんわ」とは言わせない！説明力向上・若手勉強会	雇用対策課若手WG	「ごめん、何が言いたいか分からんわ。」 誰しも一度は、上司からこのような指摘を受けたことがあるのではないでしょうか？ 特に若手の頃は、このような苦い経験をすることも多いはずです。 そこで、課内の若手職員が集まり、各自の説明力向上を目指して勉強会を立ち上げました。 勉強会では、自分たちの担当業務について新採職員への業務紹介や、懸案事項についての部長レクなど、場面設定を変えながら説明し合い、それぞれの説明後には、説明内容について良かった点、悪かった点などの講評をメンバー全員で行いました。 さらに、説明を聴き合うことを通じて課の全体的な業務について理解を深めるとともに、若手職員間のコミュニケーション活性化が図れるように取り組みました。 また、ベテラン職員とのコラボ講座も実施し、業務に役立つノウハウを伝授していただきました。 若手職員のスキルとチームワークの向上を目指した取組です。
自由テーマ部門	部局横断	診断ツールで会議をらくらくチェック！	その会議見直し隊（ＤＸ推進スペシャリスト養成研修Ｅ班）	会議は組織で業務を進めるうえで日常的に行われていますが、会議をすることが当たり前になり、会議の目的が不明確になったり、移動時間や資料準備などで非効率な部分も生じています。 そこで、会議をより効率的・効果的に開催するための道標として、「らくらく会議チェックツール」を作成しました。 当該ツールは、スマホやＷｅｂから診断フォームに数問回答するだけで、会議コストや自身の想定している会議に沿った開催方法等を簡単にチェックすることができます。その際、コストは具体的なモノやサービスへ置き換えることでイメージしやすくしたり、それぞれの会議に応じた個別アドバイスが表示されるようにするなどの工夫を行いました。 取組の効果として、利用者アンケートを行った結果、８割の職員に評価をいただき、職員の会議コストへの意識付けや会議の見直しへのきっかけづくりに一歩でも貢献することができました。